

# 北陸唯一の現存天守 丸岡城の 当時の姿とは



丸岡城天守

全国でも例のない石瓦で葺かれています。天守台は加工の少ない自然石を使う野面積みで、木造部分は2重3階建てで1階と2、3階の間に通し柱を持たない構造です。小ぶりながら簡素で無骨な印象を与える天守ですが、地元では親しみを込めて「お天守」と呼ばれています。

そんな丸岡城天守ですが、近年その文化財的価値を再検証するための調査が行われています。調査の過程で発見された戦前の解体修理工事の際に撮影された写真や修理記録、自然科学的な調査や他の天守との比較検討を通じて、丸岡城天守のイメージが大きく変わるうとしています。

戦国時代から江戸時代にかけて、全国各地に数多くの城が建てられていますが、そんな中で、現在も天守が残っている城郭は全国でわずかに12か所。丸岡城は北陸地方で天守が現存している唯一の城です。

丸岡城は天正4（1576）年に柴田勝豊によって築城され、青山宗勝、今村盛次らの後に本多成重が入城。その後、有馬家が入封し明治維新を迎えます。明治以降、敷地や建物は除却され、天守も一時民有となりましたが、有志により町に寄付され、公会堂として活用されていま



石瓦の屋根

丸岡城天守は独立式望楼型に分類される天守（古い種類の天守）で、6月28日の福井地震によって倒壊。その後の修理工事を経て現在に至っています。

戦前の修理工事の写真や記録から、特徴である石瓦と3階の廻り縁が後の改造だということがわかりました。また、現在素木の懸魚は漆塗り、銅板張の鯨はもともと金箔押しという華やかさを持っていたこともわかりました。さらに、丸岡城天守の特徴の一つとして、柱の根元を地中に埋める掘立柱という、天守では特殊な構造が知られていました。が、当初は掘立柱ではなかった可能性が指摘されています。

自然科学的な調査から、移築されている門も天守と同時期である可能性や、一部の建築部材は遠く東北地方から持ち込まれていることもわかってきました。

方から持ち込まれていたこともわかってきました。

一見小ぶり  
で質素な丸岡城。今回の調査で従来とは異なる新しい姿が少しずつ明らかになってきました。無骨なイメージで語られる丸岡城から一変し、実際は御殿風の華やかな姿であった可能性があるので。今後も調査を続けていけば、丸岡城のイメージが更に変わっていくのかもしれない。



復元想像図

## 関連史料・ゆかりの地

### 丸岡歴史民俗資料館



丸岡城築城400年を記念して、昭和53（1978）年に旧城郭内に開館した丸岡歴史民俗資料館。丸岡藩の歴史や丸岡の民族芸能をわかりやすく展示しています。

【住所】 坂井市丸岡町霞 4-12  
（JR 福井駅から本丸岡行きバス「丸岡城」下車すぐ）